

学校関係者評価委員会 令和3年度 第1回委員会議事録

日 時：令和3年10月12日(火)18:00～20:00

場 所：161教室

出席者：藤田委員長・丸山委員・相賀委員・土井委員・鈴木委員（代理 阿部委員）・
大槻委員・大和委員・森本委員（順不同・敬称略）

オブザーバー：山下理事長・堤下校長・見邨副校長・谷川・増田・鍵谷・玉井・釜友・山本
野瀬・亀井・藤本

1. 開会挨拶

校長から開会挨拶及び、報告書の説明

藤田委員長挨拶

山下理事長挨拶

2. 委員紹介

3. 議事内容説明

堤下校長より議事内容の説明が行われた

4. 議案

各科からの説明及び質疑が行われた。

1) 2020年度学校自己評価報告書について

2) その他

■オブザーバーより2020年度学校自己評価報告書基準1～基準10について報告がなされ、下記のような質疑応答が行われた。

□藤田委員：働き方改革、学内(教育)での改革において、コロナ対応について様々な工夫があったと思います。良い部分は残して、改革を進めて欲しいとの要望があった。

・堤下：通常の授業の中に採り入れることはなかなか難しいが、講習会などにおいてはオンデマンド、オンライン授業を積極的に取り組んでいく予定である。

□相賀委員：資格取得についての積極的な取り組みについて詳しい説明をしてほしい。

・増田：専科2級建築士科への啓蒙、卒業後の講習会など、建築系学科での取り組みの説明を行ない、充実させていきたい。

□大槻委員：住環境リノベーション学科での人材確保についての自己評価の事由について。また、建築CGデザイン学科での、職業教育における外部評価についての自己評価の事由について説明をしてほしい。

・山本：教員の技能講習などについて、コロナ禍の影響があり実施できなかった部分がある。

・玉井：学科内容として非常に先端的分野でもあるため、実務経験では教員だけでなく外部評価

も発展途中であると考え、このような自己評価としている。

□丸山委員：早期離職の定義について、及び求人に対する学校から企業への評価基準についての質問があった。

- ・山下：早期離職者の定義はあえて設けておらず、離職の調査は毎年教職員で卒業生の就職先企業訪問を行い、経過観察している。求人票をもとにした評価、企業との連携を密にとり、学校としても進路担当者を増員し、状況確認を直接訪問して行うなどの対応を行なっている。

□大和委員：学生支援について、コロナ禍の元での退学者がゼロ、ということは素晴らしい。相談件数について説明してほしい。

- ・谷川：相談件数は401件。登校再開後に相談件数は増加した。相談内容は、学習面・クラスでの人間関係である。

□土井委員：オンライン授業での学生の反応はどうだったか説明してほしい。

- ・堤下：デジタルデバイス調査を行なったところ、スマートフォンでの環境が多かった。教員での対応として様々な工夫を行ない、アンケートの結果をフィードバックし、今年度においては昨年の知見を活かした対応ができた。次年度の入学生からは全学科でノートPC導入の予定であり、オンライン授業とともにデジタル教育の拡充を目指している。

- ・山下：オンラインだからできることも様々あり、今後も積極的に活用を考えている。

■堤下：採点用紙への記入とご提出の依頼を行った。

建設業界サポートアンドキャリアプログラム、Sゼミについて、資料とともに説明があった。

外国人留学生採用オンラインセミナー(大専各主催)についてオンライン視聴の案内を行なった。

5. 次回開催日時等

日時：2022年2月8日（火）18時

場所：修成建設専門学校

（記録文責：釜友・野瀬）